



巻頭言



野村 信
宗教部長

「大いなる光り、輝けり」

闇の中を歩む民は、大いなる光を見、
死の陰の地に住む者の上に
光が輝いた。
(イザヤ書九章一節)

暗く、重たい時代である。外はいつものように太陽は輝き、草木は涼しげに風に揺れているのに、世界は明日にでも終わるかのように、不安と憂いに包まれている。イザヤが描く人々の嘆きや悲しみを表現する言葉を見つけることは容易なことではない。しかし、ヨブもまた不条理な苦しみの中で嘆いた。
(ヨブ記三章三、四節)

わたしの生まれた日は消えうせよ。
男の子をみごもったことを告げた夜も。
その日は闇となれ。
神が上から顧みることなく、
光もこれを輝かすな。

旧約聖書は、「光と闇」という言葉を頻繁に用いる。それは創世記に描かれる天

地創造の最初の記事から始まっている。しかし、ここで言われている「闇」とは、単に夜が暗いという意味ではなく、失意と悲しみの中で救いや希望が見出せない状態を指す。

このことは現代においても形を変えて私たちの中に広がっている。一見、楽しく、面白可笑しく過ごす日々の中に、ふと脳裏をよぎる不安、思い通りにいかない腹立たしきがある。それらは解決できないと怒りに転じ、突然抑えられない衝動へ人を突き動かす。

人間の感受性、思考パターン、すなわち基本的な認識能力は昔も今も変わっていない。なぜなら生まれつき備わっているからだ。人間は、人間以上にはなれないし、人間以下にもなれない。いつの時代でもどんな環境の中にあっても、原則的なものは共通している。

ところで、社会を見渡し、自分自身を見つめて思索を重ねても、どこかで行き詰まる。それは、人間が地上を構成する一部であり、いずれ朽ち行く有限な存在であるからだ。

聖書は、そんな私たちに、人間の生きる意味と根拠を示す。すなわち私たちと共にあり、かつ私たちを超えたところから働きかけてくる、まことの光なる神である。その光には闇がない(ヨハネの手紙第一章五節)。イザヤ書に登場する人々はその大いなる光りを見、そこに希望を抱いた。

「贈り物の物語」



学長
松本 宣郎

クリスマスの時節になると必ず話題に上るのが「クリスマスキャロル」に代表される、物語の数々です。英国の人気作家だったデイケイズのこの短編は、コミカルなファンタジーという感じで、庶民の家庭の心温まるクリスマスのよさを描いて、世界で愛読されてきました。

『兵士のなみだ』という絵本はヘロデ大王の命令を受けて幼子を襲おうとした兵士がその子の美しい笑顔に心を開かれる、という福音書から想を得た作品。またこれもよく子供クリスマスで引用されるのがヘンリー・ヴァン・ダイクの『四人目の賢者』。ユダヤ人の王の誕生を祝おうと東方からやって来た占星術の学者は三人ではなく四人だったが四人目の学者は道に迷って間に合わなかった、しかし……という結構壮大な物語です。

三人の学者は黄金、乳香そして没薬を贈り物として持つてきました。三つはキリストの王としての権威、祭司である神的権威、そして死んで墓に葬られる弔い、を象徴していると解釈されています。「四

人目」の物語は、彼バルタザールは「真珠」も持つてこようとしていたのだ、と記しています。これではキリストの意味の説明がつかず、確かに不要なものではあつたのです。

もう一つ、クリスマスにちなむ短編にオー・ヘンリーの『賢者の贈り物』もよくこの時期登場する作品の一つです。つましく愛情深い夫婦、夫は妻の美しい長い髪のために、家宝の金時計を質入れしてべつここの櫛を買い、妻はその髪を切つてお金に換え、夫の金時計の鎖をかう。食い違いのクリスマスプレゼントが織りなす微笑ましい物語です。

クリスマスにちなむ事柄、たとえばクリスマスツリーとか七面鳥料理とか、はどうしてそうなつたか、考えることがあります。O・クルマンという有名な神学者が『クリスマスの起源』という掌編でクリスマスと並んでツリーの起源についても語っています。

「プレゼント」はどうなのでしょう。東方の学者たちの三つの捧げ物がそのルーツなのかもしれません。もちろん「贈り物、贈与」というならわしは人類が古くからしていたことです。その本質は、「自分が損をして相手にも利益を

与える」行為です。そこには「見返り」が期待されているということでもありません。

理屈を言わなくとも、私たちのクリスマスプレゼントも、「利益の相互授受」という面を持っています。オー・ヘンリーの小説の夫婦も贈りつつ、もらうことを想像していたでしょう。私たち、親が子にプレゼントする場合は、もらったときの子の喜ぶ顔が十分な「見返り」です。

では、東方の学者のプレゼントはどうか。神がくださった御子キリスト誕生への感謝という、神への「見返り」ではなかつたでしょうか。このことは、私たちすべての人類に神が贈つてくださったプレゼントがキリストであるということ、しかも神ご自身はなんの「見返り」をも期待せずにその贈り物をくださった、というところをも意味しているように思えるのです。



アヴィニヨンのプティ・パレ美術館蔵



フィリピンのクリスマス



大学宗教主任
北 博

パロルと呼ばれる星型のランタンを吊るします

マリガヤン・バスコ！（クリスマスおめでとう。）フィリピンには四季はありません。冬がないのももちろんですが、春も秋もありません。年中夏で、雨季と乾季があるだけです。ところが冗談で、フィリピンには三つの季節がある、と言う人もいます。雨季と乾季と、それにクリスマス・シーズンです。それくらい、フィリピン人にとってクリスマスは大事な時期なのです。キリスト教国のフィリピンでは、クリスマスは信仰を確認し、神の恵みに感謝する喜びの時です。人々は9月になると、早くも浮足立ち始め、クリスマスの準備に追われます。アドヴェント（待降節）になると各家庭では、パロルと呼ばれる星型のランタンを吊るします。これは、イエス・キリストの降誕したベツレヘムに導く星を象徴する飾りです。

翌日からは平静さを取り戻します。教会ではクリスマス礼拝やミサが執り行われ、各家庭ではレチョン・バブイ（豚の丸焼き）などでお祝います。教会でお祝いの会が開かれて、いろいろな催しが行われたりもします。私にとっては、芸達者が多いフィリピン人達に囲まれて、今度は何をやらされるかとはらはらドキドキする時期でもあります。

クリスマス休暇は1月6日まで続きます。丁度日本のお正月のようなものですね。この間、あちこちから帰郷して再会を果たした家族は、一家団欒を楽しみます。この点は日本と同じですが、ただ違うのは夏だということです。元日にみんなでビーチに出かけたことがあります。もつとも、フィリピンではあまり泳いだりしません。持ち寄った肉や魚貝類を炭火で「浜焼き」にして食べます。お正月にヤシの木の下で、熱帯の海に沈む大きく真つ赤な夕日を見ながら静かな波の音に聞き入るのは、至福の時間です。

このように、キリスト教国のフィリピンでは、クリスマスは日本に比べると宗教色がかなり前面に出ている上、家族や親族の果た



レチョン・バブイ（豚の丸焼き）



ミンダナオ島の教会

す役割も今の日本より強いように
思います。

「思い出のクリスマスソング」



Some where in my memory, Christmas song



あなたにとって「思い出のクリスマス・ソング」と言えば、何ですか？阿久戸先生の聖書研究会メンバーに聞いてみました。

小梨：高校の時合唱団に入っていて、クリスマスには街頭で合唱を披露していました。その時必ず歌っていたのが「You Raise Me Up」という曲でした。皆さんが足を止めて聞いてくれるのが嬉しくて、クリスマスという訳ではないのですが、冬になると思い出す曲です。

東：明るい曲とかロマンチックなラブソングとかが多いと思います。私はYUIの「Rain」という曲が好きです。イヴの曲で、「あなたは来ない」「みたいな悲しい感じなのですが、個人的にはそういう曲が好きです。

坂本：「We wish a merry Christmas」です。小さい頃に観たディズニーアニメで、みんなが喧嘩していてクリス

マスの準備が進まないのですが、この曲をみんなで歌って仲直りした、という物語で、このアニメと曲のことは今でもはっきり覚えていています。

角田：歌ではないですが、「戦場のメリークリスマス」という曲が好きです。小さい頃に初めて聞いていい曲だなと思ったのですが、当時は曲名は知りませんでした。でも今ピアノ曲がマイブームで、最近になってこの曲にまた出会って、10年振りによく聞いています。

安垣：ゆずの「しんしん」という曲です。以前、冬にゆずの宮城ライブに行った時、歌詞の最初の「街はイルミネーション」で始まる部分を「街は光のページェント」と変えて唄ってくれたことが印象に残っています。景色や季節感をよく感じ取れる点が良いです。

鎌田：「もろびとこぞりて」という讃美歌が好きです。高校の時、月ごとに歌う讃美歌が

決まっていたのですが、この曲の時は歌っていて楽しくなるし元気になります。あまりしんみりするのではなくて、友達とも口ずさんだりできたのがよかったです。

中村：Justin Bieberの「Mistletoe」です。家族団らんのクリスマスというよりも、恋人たちのクリスマス・ソングに聴こえて、ロマンティックな気分になれるのが好きです。

狩野：竹内まりやとかよくかかっていますけど、これといって定番みたいのはないかもしれません。クリスマスは明るい曲が良いと思います。

なるほど、一人ひとりに色々な思い出のクリスマス・ソングがありますね。以前は山下達郎とか竹内まりやとか、洋楽ではジョン・レノンとかマライア・キャリーとか、「ト定番」の曲がありました。最近はいわゆる定番曲が無くなっている印象です。

クリスマス・ソングには、私たちが明るく楽しい気分にしてくれる曲もあれば、逆にしっとり切なくて、大事な人と過ごす時間の大切さを教えてくれるような曲もあります。

クリスマスは、神様からの最高の贈り物である御子イエス・キリストをお迎えする季節。最高のギフトを受け取るのですから、とても嬉しく明るい雰囲気曲が似合います。また、一年のうちで最も陽が短く暗い季節に、私たちの心に暖かくロウソクの火を灯すように、キリストがお生まれになったことを思いつつ、大事な人がそばにいてくれることに感謝する、そんなしつとりとした雰囲気曲もまた、クリスマスによく似合います。

静けさと暗闇に優しく輝く、世を照らす光。それは聖書のクリスマスメッセージそのものです。そんなクリスマスイメージを思い浮かべながら、皆さんもそれぞれ思い出のクリスマス・ソングを作っていただきたいと思います。

(文：阿久戸義愛)

「クリスマスの歌がきこえる」

中川 郁太郎



♪〜クリスマスの歌がきこえてくるよ
 クリスマスの歌がきこえてくる
 メリー メリー クリスマス
 メリー メリー クリスマス
 もうすぐ 楽しい
 クリスマス♪

新沢としひこさんが作詞・作曲した「クリスマス」の歌がきこえてくるよ」は、最近子どもたちの間でよく歌われている「なじみの」クリスマスソングです。幼稚園や小学校のクリスマス会でも歌われることが多いらしく、わが家でもクリスマスの季節が来ると、二人の娘がしょっちゅう歌っています。YouTubeなどで簡単に聴けるので、是非みなさんも聴いてみてください。

この歌の中では、キリスト教会だけでなく国中でお祝いされるようになった今の日本のクリスマスのように、みんなが「メリークリスマス！」と歌います。最初に歌うのは誰でしょうか？ 2番の歌詞はこうなっています。



♪〜羊飼いの歌がきこえてくるよ
 羊飼いの歌うよクリスマス
 ヨロレ〜イ ヨロレ〜イ
 クリスマス
 ヨロレ〜イ ヨロレ〜イ
 クリスマス
 ヨロレ〜イ ヨロレ〜イ 楽しい
 クリスマス♪

最初のクリスマスの夜、救い主イエス・キリストの誕生を一番に告げられ、喜びの声をあげたのは、富と権力を一身に集めたヘロデ王ではなく、貧しい羊飼いたちでした（ルカ2：8〜20）。ですから、羊飼いたちが真っ先に歌うのです。面白いのは、ここで羊飼いたちが「ヨロレ〜イ、ヨロレ〜イ」と歌っていること。「ヨロレイヒ〜」はスイスのアルプス地方に伝わる、ファルセット（声をわざと裏がえす）を使ったヨーデルの歌い方です。聖書の時代の羊飼いは街で生活することを許されなかった人たちで、ホームレスのようなみすぼらしい外見をした乱暴な集団だったと言われていますが、この歌の羊飼いたちはもつとのんびりした「アルプスの羊飼い」なのでしょう。

羊飼いの歌の後、白うさぎ ↓ 森のクマ ↓ ゆきだるまが順番に歌います。が、ゆきだるまはハミングしかできません。

♪〜ゆきだるまの歌がきこえてくるよ
 ゆきだるまも歌うよクリスマス
 ん〜 ん〜 んん〜
 ん〜 ん〜 んん〜
 ん〜 ん〜 楽しい
 クリスマス♪

でも、声が出せないゆきだるまも、クリスマスを中心に楽しんでくれるようにです。クリスマスの喜びは、歌が上手に歌える人だけのものではありませんよね。声の大きな人もちいさな人も、歌が上手な人も苦手な人も、ともに声をあげて歌いながらあたらしいクリスマスを迎えたと思います。



「あなたも行って 同じようにしなさい」

ルカによる福音書10章29～37節



社会福祉法人
光の子どもの家
理事長
すがわら 哲男
すがわら かつお

今日、旧約聖書は、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の人々にとつての聖典であり、世界の人口の55%が、この教えに耳を傾けています。旧約聖書の最初には創世記があります。旧約聖書に描かれる最初の人間たちは、戒めを破り、罪を責任転嫁し、兄弟殺しをするという悲惨な姿を現しています。そういう点で聖書は私たち人間に、どう生きるかをよく考えるようにと告げています。

私の若き日の体験をお話しいたしますが、私は大学で物理の教員になろうと準備していました。四年ほど助教として働いている時に、指導教官から婦人の更生施設でボランティアをするように頼まれ、学生たちを連れて一月ほど奉仕活動をしました。その施設は、国の売春防止法によって、収容された婦人たちが社会復帰できるように生活訓練を受ける場所でした。そこでは、夜中に逃げ出す人がいて、ある日、施設の少女を連れて、一週間ほど繁華街を徘徊し、警察に補導されて帰ってきた婦人がいました。それを寮母がきつく叱りつけると、婦人は逆上し力ミソリで切りかかろうとしました。最悪の状態の中で、寮母は、「殺していい。そのかわり、私の分まで生きてちょうだい」と言ったのです。婦人は動転して自らの頬を切つてしまい、救急車で運ばれ入院し、しばらくして退院し、施設に戻り、夕食の席で次のように挨拶しました。「今まで、人に騙され、蔑まれ、良いことをしてもらったことがなかったのに、今回、寮母さんが私のために命を差し出そうとしたことで、初めて本当の人に会いました」と。そしてその後、その婦人は、更生して社会復帰し、養子育てて人生を全うしたのです。

私は、人生を謳歌していた時に、この出来事に出会って、どう生きていくかを深く考えさせられ、大学に辞表を出して、しばらく考えました。牧師さんに会って、相談し、私は僻地教育をしたいと話すと、「これからは僻地が減り、むしろ人々の心の僻地が広がるよ、おまえさんの人生をそのために使ったかどうか」と言われ、その言葉に心打たれました。

それから、しばらく私は「いずみ寮」で働き、その後、現在の「光の子どもの家」を設立しました。ここは虐待された子どもたちを収容し、育て、社会へ旅立つまでを支援する施設です。当時政府は、虐待された子どもたちを三万五千人と数えて収容定員としましたが、昨年の虐待で児童相談所に訪れた児童数は、十三万人を越えています。施設に入れるのは、かろうじて二、三千人です。今年の三月にも目黒区で、児童虐待で五才の子が死にましたが、虐待は増え続けています。

本日の聖書にある、サムリア人は、道の途上で傷ついて倒れている人を見つけ、憐れに思つて近寄り、介抱しました。サムリア人は旅をするという目的があつたのですが、途中で中断して、傷ついた人を助け、しかも宿屋に泊まつて世話をしたのです。私たちは自分の人生は予定通りに進めたいと思つています。今、虐待をする親たちの多くは、子どもが自分の思うとおりにしない、自分たちの予定を妨げるといふことで、怒つてしまいます。その結果多くの虐待が起きてしまいます。

自分の予定を中断して、他の人々のために時間を使うことが求められます。自分の子どもたちだけでなく、他の人々に対してのもそうです。私は、昔の友人たちと一緒に食事をするのがありますが、友人たちが、私のことを羨むとさきがあります。しかし、それは誰にでもできることです。どうか、若い皆さんは、貨幣や名譽のためだけでなく、自分で納得できる人生を歩いて行ってほしいと思います。

菅原 哲男氏

一九三九(昭和14)年生まれ。
79歳

職歴

青山学院物理学教室助手
児童養護施設城山学園
児童養護施設愛泉寮施設長
児童養護施設光の子どもの家
設立 施設長
児童養護施設光の子どもの家
理事長
(現在に至る)

講師歴

一九九九(平成11)年四月
足利短期大学非常勤講師
聖学院大学非常勤講師
二〇〇二(平成14)年四月
日本社会事業大学非常勤講師
二〇〇六(平成18)年四月
大妻女子大学非常勤講師

主な著書

- 『誰がこの子を受け止めるのか』(言叢社)
- 『家族の再生』(言叢社)
- 『隣の人』(いのちのことは社)
- 『養育辞典』(明石書店)

「小さき者の一人」

マタイによる福音書25章30～40節



社会福祉法人
仙台キリスト教育児院
院長
すずき しげよし
鈴木 重良

静岡県御殿場、1919(大正8)年夏、壮大な富士の裾野を流れる黄瀬川にかかる天国橋を一人の若い女性が身なりのよい紳士淑女に伴われ渡る。らい療養所「神山復正病院」に強制入院のためである。女性の名は井深八重22歳。それは思いもかけぬ運命のいたずらであった。父は衆議院議員の井深彦二郎、八重7歳時両親離婚後は父方伯父である井深梶之助(明治学院総長)の元で、英語教育、ピアノレッスン等英才教育を施され深窓の令嬢として何不足なく育てられ、1918(大正7)年京都の同志社女学校卒業と同時に長崎県立高等女学校の英語教師として赴任してわずか1年後の出来事であった。

こられた八重は院長室で思いもよらない言葉を聞く。「らい……」まさかわたしがあのらいに！とてつもないものが自分を襲ってきている。時間が止まり、風景から色が抜け落ち声もかけられないほど打ちしおれていく。「一生分の涙を流した。戸籍を抜かれ、社会的に死んでも同じ、わずかな救いも見出せない、気が狂いそうな状況の中の自分を八重は回想している。

神山復正病院(1889(明治22)創設)では70人の患者たちが院長ドルワー・ド・レゼー神父の下で信仰に身を委ね、療養生活を送っていた。ところがレゼー神父の部屋からはいつも患者たちの笑い声が聞こえてくる。絶望の末の諦めからなのか、しかし喜びさえ伝わってくる。すべてがむなしく死の谷と考えていたこの場所に春のような風が漂っている。この世に生きる望みを絶つたはずの彼らが新しい生の意味と価値に目を開き始めているのではないか。神の手に身を委ね決して空ではない確かなものを掴み取るうとしていてのではないか。

1920(大正9)年あのいまわしい発疹が消え、再検査の結果「ライニ非ス」どこをどうやって帰ったか、行き交う人並み、足音、ざわめき、まるで違う光景に写っていた。絶望から救われたがなぜか喜んで帰っていけない違和感が残る。レゼー神父は言う「ここを出てどうするかはあなたの自由」

戸惑いが不思議であった。ためらいはなんだろう。解放された病に自分から飛び込んでいく自分。自分もらいに病みながらそれでも人を励ます人々の心に応えずにはいられなかった。1924(大正13)年八重は神山復正病院の最初の看護婦として働き、92歳で亡くなるまで復正病院にささげた。

わたしが所属する仙台キリスト教育児院では1906(明治39)年2月27日雪と雨の降りしきるなか、アメリカ人女性宣教師フランシス・E・フェルプスが、前年、南東北地方を襲った大凶作により飢えに苦しむ7名の貧孤児を仙台市郊外の根白石村より、荷車に乗せて東三番町(現河北新報社付近)の新田文右衛門宅に救済したのが創設となり、今年で創立113年である。

創立後様々な紆余曲折を経て昭和10年現在地の青葉区小松島新堤7番1号(当時原町小田原新堤12番地)に移転し、創設の精神であるキリスト教の「愛」を支えにその時代その時代に神様の導きで様々な困難を乗り越えてきた。

信仰の中に救いがあり、聖書の言に喜びを見いだす。「小さき者の一人」をわたし自身の中に見出したとき、神の前に謙虚でへりくだった自分にイエスの言う「わたしにしてくれたことなのである」との御言葉が生きる道標として示されたことを信じ、神さまから与えられたなすべきことに祈りつつ向き合いたいと思います。

◆鈴木重良氏

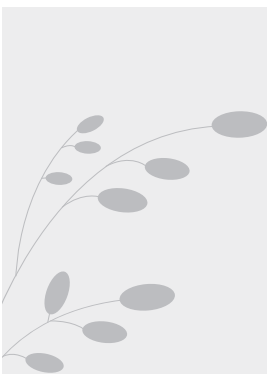
一九四九(昭和24)年生まれ。
(宮城県出身) 69歳

学歴

一九七二(昭和47)年三月
東北学院大学文学部卒業
一九七四(昭和49)年三月
東北学院大学法学部卒業

職歴

一九七四(昭和49)年四月
社会福祉法人仙台基督教教育児院 入職
二〇〇七(平成19)年四月
児童養護施設丘の家子どもホーム 園長
二〇一六(平成28)年四月
社会福祉法人仙台キリスト教育児院 院長
(現在に至る)





クリスマスのご挨拶

みなさん、クリスマスおめでとうございます！



大学宗教主任 吉田 新



「今年のイブもまた一人だよ」
 学食で昼食を食べていると、隣に座っていた学生の会話が聞こえてきました。日本の若い人たちは、クリスマス・イブは恋人と過ごさなければいけないという強迫観念があるのでしようか。以前、生活していたドイツでは、クリスマスは家族と共に過ごす大切な時間です。ドイツでは二四日の午後から二六日にかけてお店は閉まります。その前に贈り物や食事のための買物を済ませる必要があります、休暇前の店舗は殺気立ったお客さんでいっぱいでした。ドイツの方もクリスマス準備は滞りなく行くべきという強迫観念に苦しんでいるようです。こちらも見えて少し気の毒。恋人や家族、また一人で過ごそうとクリスマスと自分とのつながりを見出さなければ、意味はないでしょう。ドイツの詩人の言葉を思い出します。「キリストが千回ベツレヘムに生まれても、あなたの中でなければ、あなたは永遠に救われぬ」。

大学宗教主任 原田 浩司



2018年も紅葉の季節のピークが過ぎ、クリスマスに祝う季節を迎えました。多賀城キャンパスの礼拝堂も入り口が電飾で彩られ、クリスマス・ツリーも飾られ始めます。
 2000年にわたり世界中で祝われてきたクリスマス。しかし、日本ではコマージュリズムにすっかり覆われ、本来の意味が失われて、「恋人の日」や「サントの日」になっていきます。なるほど、「X'mas」の「X」は中学の数学でも学んだ「変数x」ということで、なんでもありか!?しかし、東北学院大学で学ぶ皆さんは、よりよく生きる教養人として本物に接していただきたい。今年「本当のクリスマス」の意義をかみしめて、クリスマスを迎えましょう。多賀城では12月14日(金)に東京神学大学特任教授の朴憲郁(パクホンウク)先生を説教者に招いて、クリスマス礼拝が行われます。願わくは、工学部の全学生が集いますように!(キャンパスの限界のため全学生は入れませんが...)

大学宗教主任 北 博



皆さんは、クリスマスにどんな思い出があるでしょうか。私は幼い頃に見たクリスマス・ツリーや幼稚園のクリスマス、学生時代に偶然出くわしたキャロリング、更に教会や勤め先の学校で行なわれた様々なイベントが、過去に遡るほど一層鮮明な視覚映像として蘇ってきます。仙台ではやはり、「光のページェント」でしょうか。それに、東北学院大学の様々なクリスマス行事や飾り付け、ライトアップなども、おそらく卒業してからかなり時間がたつてから、ヴィジュアル的にくつきりと心の中に蘇ってくることでしよう。このような美しい思い出は、一生の宝物です。もう一つ、クリスマスは世に平和をもたらし御子イエス・キリストのご降誕のお祝いなのです。この機会に世のために何かをする決意をしてみませんか。それによってクリスマスは、一層意義ある思い出になるだろうと思います。

編集後記

今年もクリスマスの季節を迎えました。クリスマスは、言わずもがな、キリスト教の祝祭日です。各キャンパスで行われる大学クリスマス礼拝は本学が最も精力を傾けて取り組む礼拝です。本号の表紙を飾る聖歌隊がメサイアの歌声を皆さんに届けます。クリスマス特集号では諸外国でどのようにクリスマスを過ごしているのかを紹介しています。今年はフィリピンの様子です。また、クリスマスの季節を彩るのに不可欠な音楽を特集しました。寄稿してくださった皆様、ありがとうございました。読者の皆様はクリスマスに豊かな祝福がありますように。メリー・クリスマス!

二〇一八年十二月二十五日

東北学院大学宗教部

編集者 原田 浩司

〒九八〇一八五一 仙台市青葉区土樋一丁目三番一号

宗教部よりお知らせ

クリスマス礼拝のご案内

泉公開 クリスマス	12月7日 (金)	説教者 水田 雅敏氏 日本キリスト教団 川平教会	18時30分～ 20時頃
	大学 クリスマス	説教者 朴 憲郁氏 (パクホンウク) 東京神学大学 特任教授	10時25分～ 12時頃
	多賀城キャンパス 12月14日 (金)	合唱団によるメサイアの演奏	10時25分～ 12時頃
	土樋キャンパス 12月13日 (木)		15時00分～ 16時30分頃